

1か月予報（7/2～7/29までの天候見通し）

令和4年6月30日発表

	コメント	気温	降水量	日照時間
1週目 (7/2～8)	前線や湿った空気の影響で曇りの日が多いでしょう。期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる所もある見込みです。	高い見込み	ほぼ平年並の見込み	平年並か多い見込み
2週目 (7/9～15)	前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	高い見込み		
3週目～ (7/16～29)	天気は数日の周期で変わってでしょう。	平年並か高い見込み		

※今年の梅雨入りは6月15日。平年の梅雨明けは7月28日頃です。(昨年梅雨入り6/19、梅雨明け7/16)

今月のポイント～単収・食味アップを目指して！～

水管理：7月中旬から冷害回避に備え、深水管理ができる準備をしましょう。

追肥：生育ステージと幼穂形成期の葉色を見極め、適期に適量を施用しましょう。

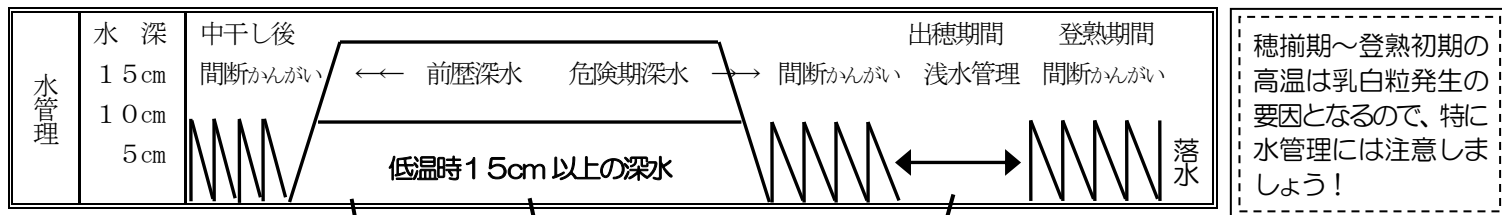
病害対策：穂もち予防剤は適期散布を実施しましょう。

カメムシ対策：7月24日頃までに草刈りを行いましょう。

今後のスケジュール

ポイント：7月中旬から冷害回避に備え、深水管理ができる準備をしましょう。

17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理を実施し稲体を保護して下さい。



穂揃期～登熟初期の高温は乳白粒発生の要因となるので、特に水管理には注意しましょう！

生育時期	幼穂形成期迄	幼穂形成期	減数分裂始期～減数分裂終期	出穂期	穂揃期	登熟期
本年予想日		7月11日頃～	7月24日頃～	8月3日頃～		
水管理	間断かんがい	4～6cmの水深。幼穂の伸長に合わせて徐々に水深を深くする。低温が予想される場合は10cm以上の深水にする。	低温が予想される場合は10cm程度の深水。低温時は15cm以上の深水。全く心配のない場合は間断かんがい	出穂開花期は、稲が大量の水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない。(3～5cm程度の浅水管理とし、落水状態は避ける)	穂揃後～登熟初期にかけて気温が日中30℃以上(夜間が23℃以上)の高温の場合は乳白が多くなります ★高温時の対策 夜間のかげ流し 夜間の間断かんがい(夜：入水 朝：自然落水)	落水時期まで間断かんがいとする。(徐々に入水期間を短くし、田面が湿っている程度とする。)
穂もち	圃場巡回	予防剤散布	圃場巡回(いもちが見られる場合は、直ちに茎葉散布)			
カメムシ	畦畔等の草刈(出穂10～15日前まで)				薬液散布 穂揃期一週間後	

展示圃の生育状況

ひとめぼれ 衣川内展示圃場平均 (茎数は5本移植1株当りの本数)

	6月24日調査			7月5日調査		
	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉数 (葉)
	35.3	20.7	8.7	57.8	26.0	10.3
平年値	41.4	27.5	8.8	52.5	31.3	9.9
平年対比 (%)	85.0%	75.1%	98.8%	110.1%	83.2%	103.6%

今後の生育予想 (7月5日現在)

ポイント：幼穂形成期・減数分裂期の確認をしながら管理にあたりましょう。

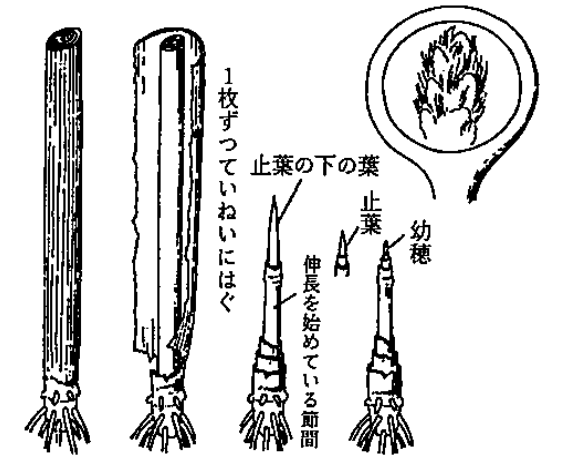
田植時期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂
5月10日	7月9日	7月21日	7月31日
5月20日	7月14日	7月24日	8月3日



生育の見分け方

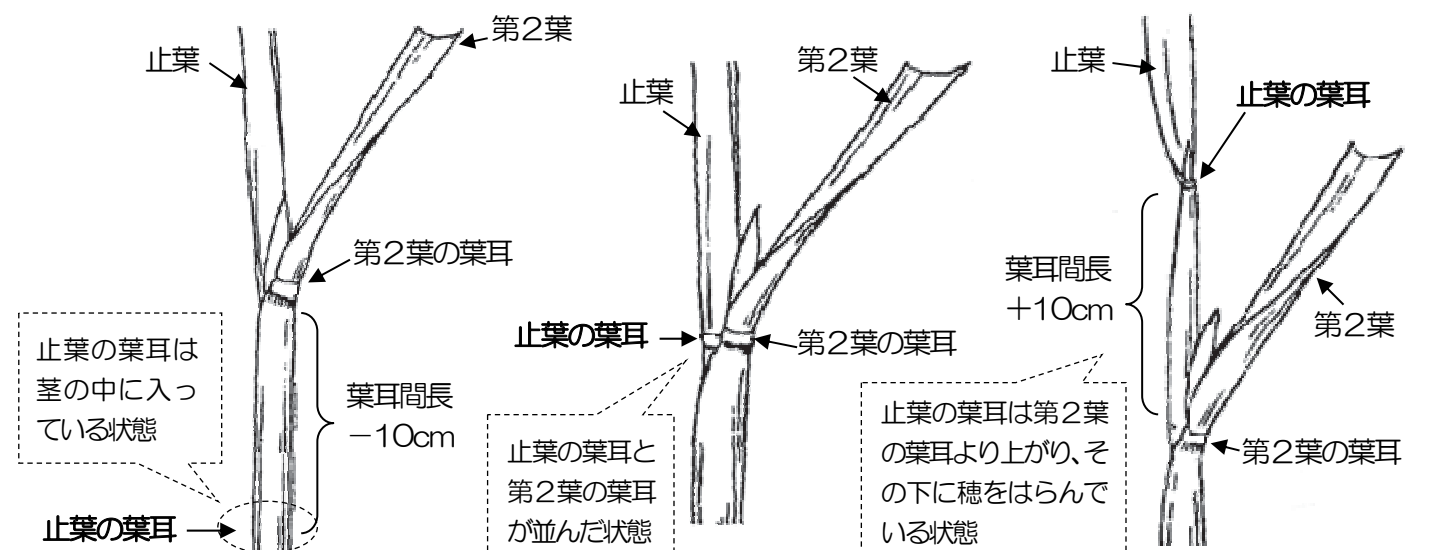
■ 幼穂による見分け方 ■

生育経過	出穂前日数	幼穂長
えい花分化期	27～28日前	1mm
幼穂形成期	約23日前	2mm
減数分裂期	16～7日前	50mm



■ 葉耳間長による減数分裂期の見分け方 ■

生育経過	減数分裂 始期	減数分裂 最盛期	減数分裂 終期
出穂前日数	16日前	11日前	7日前
葉耳間長	-10cm	± 0cm	+10cm



☀️ 天気予報と体調をチェック

👕 涼しい服装・安全な作業環境

💧 こまめな水分補給こまめな休憩

🔥 農作業時の熱中症に注意しましょう！！

追肥 ポイント：幼穂形成期に葉色を確認し、適量を施用しましょう。

- 圃場の生育状況(葉色・幼穂長 2mm〜)を確認してから追肥を行きましょう。
- 減数分裂期でも葉色がさめない場合は追肥を行わないようにしましょう。
- 緩行性肥料(楽々ライ夢くん20一発等)を使用した場合は、基本的に追肥は必要ありません。
- 出穂期以降(8月に入ってからの追肥は食味低下の原因となるので、絶対に行わないでください。
- 追肥は乳白粒発生を抑える重要な管理方法となります。
夏の暑さを乗り切るためにも、適正な施用を行きましょう。



カラースケールを活用し、適正な追肥を行きましょう！
資料センターで取り扱っています。

1. 追肥の施用時期と施用量(成分量)の目安【ひとめぼれ(10a当り)】

カラースケール基準値	幼穂形成期 出穂25日前	減数分裂期 出穂15日前	追肥の考え方
4.0未満	窒素成分量 1.0kg〜2.0kg		幼穂形成期1.0kg、減数分裂期に1.0kgと2回に分けて追肥を検討(窒素成分量2.0kgを上限)。
4.0〜5.0	窒素成分量 1.0kg〜2.0kg	—	幼穂形成期を重点に追肥を実施
5.0を超える場合	—	窒素成分量 1.0kg〜2.0kg	※葉色がさめるのを待ち、減数分裂期までに追肥を実施する。

※葉色だけで判断せず、草丈、茎数も加味して総合的に判断しましょう。判断が難しい場合はJAにご相談ください。

2. 追肥肥料現物量の目安 (10a当り)

栽培区分	肥料名	窒素成分		
		1.0kg	1.5kg	2.0kg
特別栽培米	ふるさと有機入り水稻追肥	10kg	15kg	20kg 上限
ふるさと純情米	NK-C6号	6kg	9kg	12kg

※特別栽培米「ふるさと有機入り水稻追肥」は現物で上限が20kg/10aです。超えないようご注意ください。
例)すでに現物で10kg/10a追肥している場合は、今回は残り10kg/10aの範囲での追肥になります。
肥料を間違えたり、使用量を超えると特別栽培米から外れますので、ご注意ください。

病害対策 ポイント：穂いもち予防剤は、適期散布を実施しましょう。



1. 穂いもち予防剤

区分	薬剤名	防除時期	散布量/10a	注意点
特別栽培米	ゴウケツ 1 ^キ 粒剤	出穂25〜15日前	水面施用 1kg	【ゴウケツ・フジワン共通】 ・1 ^キ 粒剤及び粒剤は3cm程度の湛水状態で散布。 ・パックは10cm程度の湛水状態で投げ入れる。 ・散布後7日間は止水とする。
	ゴウケツ 粒剤		水面施用 3〜4kg	
	ゴウケツ パック		水面施用 45g ×小包装10パック	
ふるさと純情米	フジワン 1 ^キ 粒剤	出穂20〜10日前	水面施用 1〜1.5kg	
	フジワン 粒剤		水面施用 3〜5kg	
	フジワン パック		水面施用 75g ×小包装10〜15パック	

※特別栽培米は「ゴウケツ」のみ使用可能となります。また、ふるさと純情米については、上記薬剤以外の使用も可能ですが、春肥料施肥設計指導会資料の「令和4年度ふるさと純情米農薬指定品目一覧」をご確認の上、使用願います。

※無人ヘリ防除は「ゴウケツ」の散布となります。

2. 葉いもち茎葉散布(治療剤)

※葉色の濃い部分、例年発生する水田、転作から復元した水田は特に注意して観察し、いもち病の発生を確認した場合は、直ちに治療剤を茎葉散布しましょう。
※特別栽培米の場合も、発病株を発見した場合は防除を最優先として下さい。
※農薬ラベルを確認し(使用時期・使用回数)、同一成分を含む薬剤の連用はしないようにしましょう。

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	使用回数	散布量/10a
ダブルカット 粉剤3DL/フロアブル	発生を確認したら散布。 状況に応じて2回目は7日〜10日後	穂揃い期まで	2回以内	※粉剤 3〜4kg ※フロアブル 1000倍液 60〜150ℓ
ブラシン 粉剤DL/フロアブル	に散布 ※但し、同じ薬剤の連用は避ける	収穫7日前まで	2回以内	

3. 紋枯病対策

※水口側、水尻側で25株ずつ計50株観察し、発病株数10株以上あれば防除を行きましょう。

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	使用回数	散布量/10a
バリダシン粉剤DL	出穂直前〜出穂期	収穫14日前まで	5回以内	3〜4kg 散布
バリダシン液剤				1000倍液を60〜150ℓ

※特別栽培米でも使用できます。

カメムシ対策 ポイント：7月24日頃までに草刈りを行きましょう。

1. 耕種的防除

出穂10日〜15日前(7月24日頃)までに、カメムシの発生源となるイネ科植物を中心とした雑草等(転作牧草・畦畔・農道含)を、地域一斉に刈り取ることが効果的です。



※畦畔の草刈りが基本です。水田にカメムシが寄りにくい環境作りが大切です!!
※カメムシはイタリアンライグラス、ノビエ、シズイ・ホタルイ等イネ科植物を好み穂に産卵します。
※出穂してからの草刈りは、カメムシを水田内に追い込むことになるので避けましょう。

稲ひとつでも顔を出したら、その茎を「出穂した」と判断します。



2. 使用薬剤

スタークル	粉剤DL	液剤10	粒剤	1 ^キ 粒剤
防除適期	1回目 穂揃1週間後 ※2回目 1回目から2週間後		穂揃期(出穂期から3〜5日頃)	
散布量/10a	3kg	1000倍 60〜150ℓ	3kg	1kg

- 特別栽培米は、スタークル剤を1回使用できます。ふるさと純情米は、2回まで使用できます。
- 【共通】水田内でノビエ、シズイ、ホタルイ等が発生している場合は抜き取りましょう。
- 【粒剤】湛水で散布(水深3cm程度)、散布後4〜5日は水を移動させないようにしましょう。
【液剤】発生密度が高い圃場や水田雑草が多い圃場では使用しないようにしましょう。
- 【粉剤・液剤】額縁散布(畦畔の周りのみの防除)は効果が劣るので、必ず圃場全面に薬剤散布しましょう。
- 地域一斉散布(集落内で散布日を決める)により防除効果が向上します。

■水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは… 平日 午前8:30〜午後5:00

衣川地域センター営農経済課 52-3212	営農相談ダイヤル 52-3204
営農アドバイザー携帯電話 080-5559-8955 (小野寺 良)	080-6027-6137 (小野寺 則人)
	090-4478-9918 (高橋 明子)

■生産資材・生活資材のご注文・配達… 拠点配送センター 0120-516-911

■生産資材等の直取り・窓口供給は… 衣川資材センター 52-3214

営業時間：午前8:30〜午後5:00
6月〜10月土曜日 午前8:30〜正午
※祝祭日は休業

LINEにて営農情報を発信しています! QRコードからお友達登録をお願いします。*QRコードを読み取れない場合は、「@703kysml」で検索をお

